WORK SHOP

（一社）神奈川県建築士会
中支部ナナメ塾、防災・災害対策委員会

ハテナからはじまる・みんなの防災ワークショップ

『建築士として、災害対応を考える』

【講話】1) 被災建築物応急危険度判定活動の意義
　　2)「建築士であり被災者」だった私から伝えたいこと
【グループワーク】建築士としての災害対応を考える　水災のワーク／震災のワーク

日時：2024年11月26日(火)18:00 - 20:15　＊開場・受付 17:45～
場所：ひらつか市民活動センター(平塚市見附町1-8・2階　会議室A-B)
対象：神奈川県建築士会 会員 ほか
費用：無料
申込：https://kenchiku050bousaiws01.peatix.com
二次元コードからのお申し込みが便利です→→→

CPD申請中

◆◇◆今年８月の出来事を覚えていますか？◆◇◆

◎ 8月9日（金）20時すこし前...

緊急地震速報が鳴り響き、多くの方が驚いたことでしょう。
震源地は神奈川県秦野市。
市内では緊急地震速報が間に合わず、いきなりの強い揺れに襲われました。
前日には「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が出されたばかりでした。

◎ 8月27日（火）から9月1日（日）にかけて...

台風10号本体が近づく前から、特に県西部では記録的な大雨となって、各地で土砂災害や床上浸水被害が発生しました。
その影響で、今でも避難生活を余儀なくされている方がいらっしゃいます。
そうした方々にとって、台風10号は過去の話ではなく、まだ復興の道半ばなのです。

◆◇◆みなさまへお伝えしたいこと◆◇◆

災害が起きたとき、私たち建築士は「住宅再建」という側面で被害に遭われた方々を支援する立場になります。
その過程において、自身の役割や目の前の業務のひとつひとつは「点」でしかないかもしれません。
けれど被災者にとってみれば、壊れてしまった暮らしを元に戻すまでの出来事はすべてひとつの枠組みの中で捉えられ、決して個別の出来事とはなりません。
もしも大地震で住宅が被害を受けてしまったら...

応急危険度判定のステッカーが貼られるところから、罹災証明を得て、建て替えか修復か悩んだ末に再建を果たすまで、これらすべてが「一本の線」でつながっていきます。
しかも、その線上を何度も行きつ戻りつしながらゴールを目指すことになるのです。
そうした人々を支えるためには「点」でも「線」でもなく「スペクトラム＊」という意識で連携していく必要があります。
（スペクトラム＊…ここでは「あいまいな境界によって連続する領域」という意味合いで使用しています）

今回のワークショップを通じて、被災者が直面する困難を想像し、できる限りの範囲で理解するとともに、それを支援するために必要な体制について考え、平時からの取り組みの重要性を体感していただく機会にしたいと考えています。

たくさんの方々のご参加をお待ちしています！